

受験番号	
------	--

令和8 年度総合型選抜2 期

小論文課題

[設問]

次の文章を読んで、「正しさとは何か」について、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。

功利主義の倫理学や新自由主義的な経済学では「最大多数の最大幸福」が正しい選択をするための唯一の原理だと考えますが、事実として人間はそれ以外の価値判断を行うことがあります。たとえば行動経済学の研究では、人間は自分の利益をなげうってでも公正や平等を守ろうとする傾向があることが示されています。

人間は、他の多くの動物とは異なって、正しいことと不正なことを感じる感情の仕組みを持っており、それが道徳的な善悪の起源にあります。助け合いや利他的な行動への好みや喜び、利益を独占する行為や暴力的な強制への嫌悪や怒りが、人間に独特の「道徳という領域」を開くのです。

そうした感情の仕組みは、生物学的・遺伝的な要素として人間という生物種に組み込まれているようです。そこで、進化倫理学では、人間が不正に対して怒りを感じたり、他人に親切にすることに喜びを感じたりする感性を持っていることについて、互惠や間接互惠によって説明します。しかし、そうした感情は、各個人がてんでに感じているだけでは道徳的な正しさや不正ではありません。「個人が正しいと感じること」と「正しいこと」、「個人が不正だと感じること」と「不正」とは、それぞれ別のことです。正しさとは、どのようにふるまうことが道徳的に正しいのかについての共通了解のことなのです。

【山口裕之『「みんな違ってみんないい」のか?』 相対主義と普遍主義の問題 より抜粋】